

■□ 解題

現代社会における食の価値を考える －生活協同組合だからこそできる 価値の伝え方、活かし方とは－



片上 敏喜（日本大学）

本研究所の運営委員を務めております日本大学の片上と申します。本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

本年度の総会記念シンポジウムは「現代社会における食の価値を考える」をテーマに、生活協同組合だからこそできる価値の伝え方、活かし方について、様々な観点から考えていきたいと思っております。

日々の生活をより良くし、持続可能な社会を目指して行動していくことは、協同組合にとって重要な目的です。その中でも、様々な場で食を取り扱う生活協同組合においては、食が有する多面的な価値に目を向けながら行動していくことが求められます。例えば、倫理的消費やエシカル消費といわれる人や社会、環境に配慮した品やサービス等を選ぶ消費行動、それらの品やサービスをつくる人々を支援する、あるいは生活協同組合自身が積極的に関わっていくことなどが挙げられます。

食は活動のエネルギーとして単に栄養を摂ることや、健康を維持するといったことだけではなく、生産や加工、流通、販売等に携わる方々が持つ状況や仕事に対する思い、食が持つ歴史や文化、食を生み出すまでの自然環境や社会環境のあり方といった多くの大切な事柄を含んでいます。

このように食は、食べるという行為に止まらない多面的な価値を有しているのですが、日々の生活の中でこうした食に関する様々な事柄を知り、行動していくことは難

しい状況にあるといえます。経済をはじめ、様々な事柄がグローバル化の中で、多種多様かつ様々な価格帯の商品が出回るようになりました。消費者は様々な商品を選択できるようになった反面、上述した食が有する多面的な価値を知りにくい状況があるといえます。

そうした状況ゆえに、食品購入時には、価格や容量、個人の味覚や使用感による感想（口コミ）といった分かりやすく手に入りやすい情報を頼りにして、判断せざるを得ない状況があると思います。もちろん、そのような判断や行動が悪いわけではありません。しかし、そうした判断や行動のみを重視し、仮に少しでも安い品があればそのものばかり選ぶということを、行い続ける事がもたらす影響への想像力と、そうした影響を受ける側に立って物事を考えることができる当事者意識を持つことは、とても大事なことでないでしょうか。

本シンポジウムでは、人々の生活や暮らしに寄り添う生活協同組合だからこそできる価値の伝え方や活かし方として、どのような価値を発信していくことが必要なのか、また、そうした価値をどのように受け取り、活かしていくことが大事なのか、そのためにどのような観点から行動していけばよいのかということについて、考えていくきっかけになれば幸いです。